

科目名	文系学生のための数学の世界	
担当者	内田 豊海 / UCHIDA, Toyomi	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	数学の様々なトピックを取り上げ、数学の楽しさに触れるとともに、社会生活における有用性を確認し、実際にそれを用いる力を育成する。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学の楽しさを知る ・ 数学が役に立つことを実感する ・ 実践で活用する力を養う
授業計画	(1) 講義の概要と目標 数学の楽しさって何だろう (2) 世界中の数の誕生と進化 (3) 身の回りに潜む不思議な数のパターン (4) 図形：迷路の解き方 (5) 図形：タングラムで作られるいろいろな形 (6) 確率：カラオケで好きな人の隣に座る確率は？ (7) 統計：人口変動から鹿児島市の未来を占おう (8) 関数：いろいろな現象を式で表そう (9) 微分積分：体型と体積の関係 (10) 基数：パソコンは何で動くの？ (11) 図形：様々な角度を求めよう (12) 数列：フィボナッチ数と黄金比 (13) オープンエンドな問題：データを見て選手を選ぼう (14) オープンエンドな問題：投票結果から選挙法を選ぼう (15) 数学と価値：生きる上で数学はなんの意味があるの？	
自学自習	事前学習	前時終了時に指示する
	事後学習	適宜復習、及び授業中に課題を提示する
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	中学校、高校で使った数学の教科書、参考書
成績評価の基準と方法	基準	授業中に学修した内容を理解し、問題解決を図れることができる者を合格とする。
	方法	テスト 60%、課題 20%、受講態度 20%
備考	読書課題のための選定図書 『数学ガール』 結城 浩 ISBN-10: 4797341378 ISBN-13: 978-4797341379 ソフトバンククリエイティブ 定期試験において、選定図書を読書していないと回答できない問題を出題します。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	確率と統計の基礎	
担当者	近藤 正男 / KONDO, Masao	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	自然現象や社会現象の実態を解明するために、観察・実験・調査が行われる。その結果得られる資料を統計的に処理する必要に迫られる場合が少なくない。また、社会が複雑さの度合を増し、人間の自然認識が深まるにつれて、自分達をとりまく膨大な情報・資料を分析し、合理的な判断をするためにも事物を統計的に観る目が要求されるであろう。統計学はそのための理論と応用を研究する学問である。本講はその初歩的解説を行うものである。
	到達目標	基本的なデータ処理ができるようになる。 分布の基本的な特性値の意味を理解する。 確率に関する基本的な概念や法則を理解する。 確率変数と基本的な確率分布を理解する。 統計モデルと統計的推定・検定の概念を理解する。
授業計画	(1) データの整理 (母集団と標本, データの種類・尺度・形式) (2) データの整理 (分布の特性値 (代表値, 散布度)) (3) データの整理 (分布の特性値 (形状), 標準化) (4) データの整理 (相関係数, 回帰直線) (5) 確率 (確率の定義, 条件付確率) (6) 確率変数と確率分布 (確率変数, 確率分布) (7) 確率変数と確率分布 (離散型確率変数の分布) (8) 確率変数と確率分布 (連続型確率変数の分布) (9) 母集団と標本 (標本平均の分布) (10) 母集団と標本 (正規母集団から導かれる標本分布) (11) 統計的推定・検定 (点推定, 区間推定, 検定) (12) 統計的推定・検定 (比率の推定・検定) (13) 統計的推定・検定 (平均, 分散の推定・検定) (14) 統計的推定・検定 (適合度の検定, 独立性の検定) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「教科書」を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う。
使用教材・参考文献	使用教材	稲垣宣生・山根芳知・吉田光雄著「統計学入門」裳華房, 1992 年 ISBN 4-7853-1075-8
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	到達目標が達成されたものは合格とします。
	方法	小テスト・レポート (40 点) 期末試験 (60 点)
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	科学史	
担当者	八田 明夫 / HATTA, Akio	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	物質の本質についての物質観, 物体の運動やエネルギーについての運動観、生命の歴史についての生命観, 地球や宇宙の進化についての地球・宇宙観に関する科学の歴史を学ぶ
	到達目標	物質観, 運動観, 生命観, 地球・宇宙観に関して, 自分なりの説明ができるようになること
授業計画	(1) 物質を人はどう捉えてきたか(1)古代のバビロニア・エジプト (2) 物質を人はどう捉えてきたか(2)ギリシア・アテナイ・ローマ (3) 物質を人はどう捉えてきたか(3)錬金術から化学革命へ (4) 運動を人はどう捉えてきたか(1)運動と変化の区別 (5) 運動を人はどう捉えてきたか(2)インペトウス (6) 運動を人はどう捉えてきたか(3)ニュートン力学 (7) 運動を人はどう捉えてきたか(4)相対性理論・量子論 (8) 生物を人はどう捉えてきたか(1)アリストテレスの生命観 (9) 生物を人はどう捉えてきたか(2)血液循環学説、生体の構造と機能 (10)進化を人はどう捉えてきたか(1)細胞説、発生学、個体発生の研究 (11)進化を人はどう捉えてきたか(2)種の進化、現代生物学 (12)地球を人はどう捉えてきたか(1)丸い地球は早くから知られていた (13)地球を人はどう捉えてきたか(2)地球の形から内部構造まで (14)宇宙を人はどう捉えてきたか(1)コペルニクス以前の宇宙体系 (15)宇宙を人はどう捉えてきたか(2)現在の宇宙観	
自学自習	事前学習	「科学の歴史に関する文献」を読んでおくこと。
	事後学習	・新しく学んだ事項に関して、他の文献等ではどのように記述されているか学習すること。 ・授業の初めに、前回の授業内容の小テストを行う
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	メイスン「科学の歴史」(上・下)、 アイザック・アシモフ「科学と発見の年表」など。
成績評価の基準と方法	基準	受講態度、小テストと試験で評価する。3分の2以上の出席をすること。
	方法	テスト 60%、受講態度 20%、小テスト 20%。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	人間と進化	
担当者	木下 昌也 / KINOSHITA, Masanari	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	人間の社会、文化の様々な面に実はヒトの生物学的特徴が反映されている。本講義ではヒトの進化について見ながら人間（現代人）に共通する生物学的特徴について考察する。また、講義を通して進歩的なイメージでとらえられがちな「進化」現象の本来の意味についても知ってもらいたい。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間（現代人）の生物学的側面の特徴について知る。 ・「進化」のメカニズムについて理解する。
授業計画	(1) 「進化」の意味 (2) ヒトとは (3) 霊長類の多様性① (4) 霊長類の多様性② (5) 霊長類の多様性③ (6) 進化の理論、進化の過程で起こってきたこと (7) 霊長類の進化 (8) ヒト化（ホミニゼーション）の理論 (9) ヒトの進化 (10) 脳の進化について (11) 現代人の変異の進化的背景 (12) 心理・行動の進化的背景① (13) 心理・行動の進化的背景② (14) 現代人のライフサイクルからみた人間性の本質 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・前回までの学習についてノート、プリント等で振り返っておくこと
	事後学習	・当回の学習についてノート、プリント等で振り返ること ・何回かおきに復習用の課題を課す
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に資料を配布する。
	参考文献	A. Zihlman 著 木村邦彦監訳『カラスケッチ ヒトの進化』廣川書店 1987 年 長谷川寿一・長谷川真理子『進化と人間行動』東京大学出版会 2000 年 馬場悠男編『別冊日経サイエンス 人間性の進化』日経サイエンス社 2005 年
成績評価の基準と方法	基準	上記到達目標に応じた期末テストにおいて 60 点以上の者を合格とする。また、授業中提示する「読書課題」を提出することが評価の前提となる。
	方法	期末テスト 100%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生物の多様性	
担当者	横峯 孝昭 / YOKOMINE, Takaaki	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	地球上に生命が誕生してから三十数億年。進化しながら現在 200 万以上に種分化している。あらゆる生物種、それによって成り立っている生態系、それを過去から未来へと伝えてきた遺伝子を理解し、生物多様性を理解していきたい。
	到達目標	生物の多様性を分類学的・遺伝学的に学習することで、種が千差万別でありながらも相互依存関係にあること、生物はもともと共通の祖先から分かれてきたことを理解できるようにする。
授業計画	(1) オリエンテーション・鹿児島の子生動物 (2) 種とは何か (3) 品種とは何か (4) 生物の進化について (5) 生物の定義について (6) 生物の代謝① (7) 生物の代謝② (8) 細胞分裂 (9) 生殖細胞 (10) 遺伝的多様性① (11) 遺伝的多様性② (12) 生物の系統 (原核生物・原生生物) (13) 生物の系統 (菌類・植物) (14) 生物の系統 (動物) (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・教科書を使用しないため、ノート＝教科書となる。そのノートの整理、読み直しをしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。
	参考文献	伊藤嘉昭著「生態学と社会」1994 年 東海大学出版会 ISBN9784486012726
成績評価の基準と方法	基準	生物における基本的な細胞・代謝・遺伝を理解していることを合格とします。これらを、自らの言葉でいい表せてない場合は不合格とする。
	方法	終了試験 70%。受講態度 30%。
備考	定期試験にて読書した本についての内容記載を求める設問を設ける。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	脳科学	
担当者	植村 健吾 / UEMURA, Kengo	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	脳の構造、情報伝達の仕組み、大脳皮質、記憶と本能などについて学ぶ。
	到達目標	脳の構造を知ることにより、情報の伝わり方、大脳皮質にある働きまた記憶や本能などの働きが脳のどこの部位と関係しているかについて理解を深める。
授業計画	(1) 脳とは何か (2) 脳のエネルギー源 (3) 脳は細胞でできている (4) 神経細胞と臨界期 (5) 大脳皮質の働き (6) 交叉支配の原則 (7) 左半球の働き (8) 右半球の働き (9) 意欲と前頭連合野 (10) 大脳辺縁系の働き (11) 海馬と記憶 (12) ワーキングメモリー (13) 扁桃核と感情 (14) 視床下部と本能行動 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容に関連する図書を読むこと。
使用教材・参考文献	使用教材	福永篤志 『脳のしくみ』 2012 年 ナツメ社
	参考文献	ジル・ボルト・テイラー 『奇跡の脳』 2012 年 新潮文庫 ISBN978-4-10-218021-1
成績評価の基準と方法	基準	大脳の基本的な働きが理解できたものは合格とする。
	方法	受講態度 30%、試験結果 70%
備考	定期試験において、使用教材を読書していないと回答できない問題を課す。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	こころの世界（Aクラス）	
担当者	石井 利文 / ISHII, Toshifumi	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	こころとは何か、心理学とは何かをわかりやすい身近な日常生活に沿って学び、こころの世界を探訪する。心理学においては人間のみならず動物もその対象とするが、本講義では主として人間のこころについて考える。また、犯罪心理学について紹介し、犯罪者のこころにも触れる。
	到達目標	1. こころについての基礎的な知識が得られる。 2. 心理学に関する基礎的な知識が得られる。
授業計画	(1) こころの世界を探る (2) こころとからだの発達 ① (3) こころとからだの発達 ② (4) 私らしさの形成 ① (5) 私らしさの形成 ② (6) こころをとらえる ① (7) こころをとらえる ② (8) 人をかりたてるもの ① (9) 人をかりたてるもの ② (10) 学ぶことのしくみ ① (11) 学ぶことのしくみ ② (12) 学ぶことのしくみ ③ (13) わかることと考えること (14) 人と人との結びつき (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	・学習した内容を必ず復習すること。
使用教材・参考文献	使用教材	山崎 晃・浜崎隆司(編著)『新・はじめて学ぶこころの世界』北大路書房 2006 年 ISBN 978-4-7628-2528-6 C3011
	参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標を踏まえて、こころについての基礎的な知識を得たものを合格とする。
	方法	受講態度（30 点）と期末レポート（70 点）で評価する。
備考	教員が指示する『読書課題』の遂行が成績評価を受けるための前提となる。詳細は初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	こころの世界（Bクラス）	
担当者	野上 真 / NOGAMI, Makoto	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	人の心の動きについて、勉強やスポーツ等、日常的な場面における具体例の解説や小実験をまじえて紹介する。
	到達目標	人の心の動きについて、科学的な視点から理解を深めるとともに、その理解を自らの生活の中で積極的に活かす態度を身に付ける。
授業計画	(1) こころをいかにとらえるか (2) 物覚えのこつ (1) (3) 物覚えのこつ (2) (4) 学びのこつ (1) (5) 学びのこつ (2) (6) やる気の源 (1) (7) やる気の源 (2) (8) 子どもから大人へ (1) (9) 子どもから大人へ (2) (10) 適応するということ (1) (11) 適応するということ (2) (12) つながりあう人と人 (1) (13) つながりあう人と人 (2) (14) 支え合う人と人 (1) (15) 支え合う人と人 (2)	
自学自習	事前学習	「参考文献」を前もって読んでおくことで理解の助けになります。
	事後学習	授業の初めに、前回の授業内容について質問するので配布資料を見直しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	山崎 晃・浜崎隆司(編著)『新・はじめて学ぶこころの世界』北大路書房 2006 年
成績評価の基準と方法	基準	人の心の動きについての基礎的な知識を得たものを合格とします。
	方法	本講で解説した人の心の動きについての知識の理解を評価する。(受講態度 45%、読書レポート 10%、筆記試験 45%)
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	こころの健康	
担当者	山喜 高秀 / YAMAKI, Takahide	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代（今）という時代ほど、「こころとは」「こころが傷つくとは」といった問いについて、向かい合い考えていくことが求められている時代はないと思います。本講義では、人との関わりの中で傷ついたり癒されていく「こころ」の「しくみ」や「やりくり（マネージメント）」について、ワーク（体験）を取り入れながら理解を深めていきます。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころ」について、主に臨床心理学的観点から、その「しくみ」や「ストレス」について学ぶ。 ・ 「こころ」と「身体」の関連について学ぶ。 ・ ストレスについてライフサイクルとの関連から学ぶ。 ・ 心理テストを用いて、自分の「こころ」眺める体験をする。 ・ ストレスマネージメントを体験的に学ぶ。
授業計画	(1) 「こころ」というものの存在について体験的学習 (2) 臨床心理学的観点から「こころ」の構造や機能について学ぶ (3) 意識－前意識－無意識，コンプレックスについての学習 ① (4) 意識－前意識－無意識，コンプレックスについての学習 ② (5) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ① 抑圧 (6) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ② ヒステリー (7) 「こころ」と「身体」との関連について学習 ③ 心身症 (8) 現代社会とストレス (9) ライフサイクルとストレス (10) 大学生というライフサイクルの時期とそれ以降の発達課題 (11) ストレスマネージメントのための自分理解 ① タイプA (12) ストレスマネージメントのための自分理解 ② エゴグラム (13) 自律訓練法の体験的学習 (14) 「うつ」「心的外傷」についての対処方法 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・ 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・ 毎回の授業の終わりに、その回の授業内容についての感想・質問を小レポートで提出し、次回の授業冒頭で解説を行う。
使用教材・参考文献	使用教材	特定の教科書は使用せず、随時参考資料を配布する。
	参考文献	大谷真弓・安立奈歩 2006 『授業で使える心理学ワークブック』北樹出版
成績評価の基準と方法	基準	こころの健康に関して、講義の到達目標の 5 項目の理解修得が達成されたものを合格とする。
	方法	受講態度 (40%) 総括レポート (60%)
備考	「教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。」	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	環境と法	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	現代社会において早急な解決を求められている問題の一つが環境問題である。本講義では、環境問題に対して法的側面からのアプローチを行い、その理解を進める。DVD等の機器を適宜使用する予定である。
	到達目標	学習者は、本講義を通じて環境問題と法との関係を指摘できる。
授業計画	(1) 環境と法を学ぶためのオリエンテーション (2) 近代市民社会 (3) 環境権 (4) 新しい人権 (5) 人類の繁栄 (6) 繁栄の限界 (7) 化石燃料の消費 (8) 食糧問題 (9) 経済成長の限界 (10) 資源枯渇 (11) 大気汚染 (12) 熱帯林の消失 (13) 京都議定書 (14) 国連気候変動枠組み条約 (15) 環境法	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	竹下賢『第4版・入門法学』晃洋書房 2014年
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	環境問題と法との関係が理解できたものは合格とする。
	方法	受講態度(30%)、レポート(70%)
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	自然環境のしくみ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	教養科目「受講生参加科目」、学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	①地球の構造, ②地形の形成, ③気候と気象の三つのテーマについて, これらの仕組みを地学的アプローチから見ると共に, 人間の生活に与える影響についてお話しします。
	到達目標	①自然環境形成の仕組みについて論述できることと②自然環境と人間生活の関係について論述できることの二点を目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地球を描く (3) 大地の形成 (1) —プレートテクトニクス (4) 大地の形成 (2) —地球の構造 (5) 日本列島の形成 (6) 地形営力 (7) 火山とその地形 1 (8) 火山とその地形 2 (9) 断層と褶曲 (10) 外力による地形形成 (11) 地形営力と災害 (12) 気候と気象 (1) —大気循環の基礎 (13) 気候と気象 (2) —地球の運動と大気の循環 (14) 気候と気象 (3) —水の循環 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	鎌田浩毅『地学のツボ』ちくまプリマー新書, 2009 年。
成績評価の基準と方法	基準	到達目標に従って自分の言葉でまとめることができることを基準とします。
	方法	試験 50%, 読書レポート 30%, 受講態度 20% で評価します。
備考	読書レポートの内容を成績評価の対象とします。読書課題については授業中に指示します。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	生と死	
担当者	江崎 一郎 / ESAKI, Ichiro	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 講義 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	生と死の諸問題について、より具体的な状況で生じる問題と、それへの対応について考える。特に医療における倫理的考察の可能性を探る。
	到達目標	学習者は、生と死における諸場面において、倫理的問題を指摘できる。
授業計画	(1) 生と死を学ぶためのオリエンテーション (2) 人間の尊厳 (3) バイオ・エシックス (4) 生命倫理学の成立 (5) アメリカにおけるバイオ・エシックス (6) 日本における生命倫理学 (7) 医療における倫理問題 (8) 生命の誕生を巡る問題 (9) 生殖補助医療 (10) 中絶胎児の医療への利用 (11) 生命の終焉を巡る問題 (12) 脳死 (13) 病名告知 (14) がん告知 (15) 尊厳死・安楽死	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業終了後、学習した内容を復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	丸山マサ美・編『医療倫理学・第2版』中央法規出版 2009年
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	生と死と倫理との関係が理解できたものは合格とする。
	方法	受講態度(30%)、レポート(70%)
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期・後期 / 講義・演習 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	健やかな生き方を求め、趣味・健康管理としてのスポーツが幅広く行われるようになり、自治体、民間を問わず施設やクラブづくりが盛んだ。授業では、これらの変化に関するテーマをグループごとに決め、学内外で実践を重ねて考察し発表する。
	到達目標	健康管理としてのスポーツを学び、高齢化、核家族化社会でのスポーツの移り変わりを理解する。 公営、市営を問わず増加するスポーツ施設を調査することによって、その背景、環境の変化を学ぶ。
授業計画	(1) ガイダンス (2) スポーツ概論 (I) (3) スポーツ概論 (II) (4) グループ編成：ワークシート、探求地図を用いてテーマを探す (5) グループ別ディスカッション：テーマ設定 (6) テーマ決定：課題、問題意識を示す (7) 研究方法 (例 ウォーキングの実践) アンケート作成 (8) 研究内容計画作成 (9) 学内の施設 (体育館、図書館等) において実践 (10) 中間発表・討論 (11) レポートの書き方、指導案作成、アンケート集計 (12) プレゼンテーションの仕方、資料準備 (13) 発表 (14) 発表 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	テーマに関連する資料や情報収集。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テーマに基づいた実践等。発表、提出物の作成他。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。最初の授業時プリントを配布する。
	参考文献	授業中にその都度紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	発表・討議への参加とレポート提出を合格とし、いずれか欠くと不合格。
	方法	出席・受講態度 (50%) 発表・討議 (30%) 学期末レポート提出 (20%) など総合的に評価する。
備考	教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	スポーツと現代社会	
担当者	倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期および後期 / 講義・演習 / 2 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	我が国の現代社会における特性を把握し、それによって起こる様々な疾病について知識を深め、正しい運動処方やストレス軽減としてのスポーツ活動が健康増進にどのような効果があるのか学習を行う。さらに、グループごとに問題となっているテーマに焦点をあて、現状や解決・改善策等の発表を行う。
	到達目標	自分自身の身体や目的に応じた運動種目や強度を選択できるだけでなく、心身の健康増進におけるスポーツ活動の関連性について理解する。 討議に積極的に参加し、班員と協力して問題の探求にあたり、自班のテーマだけでなく他班のテーマについても理解し、互いの情報を共有できる。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 運動と生活習慣病 (3) 運動と生活習慣病 (4) 運動処方 (5) 運動処方 (6) 筋収縮とエネルギー供給系 (7) 筋線維の種類とその特徴 (8) 発表 (9) 筋の収縮様式と筋力 (10) 筋疲労 (11) 体力 (12) 神経系の役割 (13) 運動と循環 (14) 運動と呼吸 (15) 学習のまとめ	
自学自習	事前学習	テーマに関連する資料や情報収集。
	事後学習	発表、学期末テスト対策。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない。授業時の最初にプリントを配布する。
	参考文献	授業中に紹介を行う。
成績評価の基準と方法	基準	発表・討議への参加とテストの点数を総合的に評価する。
	方法	出席態度 (30%) 発表・討議 (20%) 学期末テスト (50%)
備考	定期試験日までに読書レポートを提出していない学生は、試験を受けることができない。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	スポーツ&エクササイズA	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 前期 / 実技 / 1 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	・日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。
	到達目標	・グループ活動を通じてリーダーを養成し、1 人一役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 ・各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。計画 (15) 総まとめと実践について毎時間チェックし修正を加えていく。	
自学自習	事前学習	選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞き広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない
	参考文献	使用しない
成績評価の基準と方法	基準	・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。
	方法	・出席・受講態度 80%、グループ点 20%
備考	・第 1 回目は、体育館シューズに履き替えて集合すること。また、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。・教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	スポーツ&エクササイズB	
担当者	羽生 節子 / HABU, Setsuko 倉津 怜也 / KURATSU, Ryoya	
科目情報	教養科目 3 群 / 選択 / 後期 / 実技 / 1 単位 / 1 年次	
	—	
科目概要	授業内容	・日常生活の中で体を動かす機会が少なくなった今日、自ら進んで積極的にスポーツ活動に参加することによって、基礎体力や運動技術の向上、運動の楽しさ、明るい人間関係、仲間づくりなどを体得し、心身の健康維持・増進を図る。
	到達目標	・グループ活動を通じてリーダーを養成し、1 人一役制で全員が運営に関わり責任を果たす。 ・各スポーツのルールを理解、練習方法の工夫、技術の習得を図る。
授業計画	(1) ガイダンス (2) 種目選択、グループ編成、役割分担 (3) 手さぐり期・年間計画づくり ※準備運動から基礎練習への流れづくり (4) 手さぐり期 (5) 手さぐり期 (6) 手さぐり期 (7) 充実期・年間計画の見直し ※応用練習から簡易ゲームへの移行 (8) 充実期 (9) 充実期 (10) 充実期 (11) 仕上げ期 ※ゲーム中心 (12) 仕上げ期 (13) 仕上げ期 (14) 仕上げ期 ※(3)～(15)は各グループで個別に計画を立てる。 (15) 総まとめと実践について毎時間チェックし修正を加えていく。	
自学自習	事前学習	選択した種目の基本技術、ルール、ゲームの進め方などについて学習しておくこと。
	事後学習	スポーツ全般に関心を持ち、各メディアを見聞き広く情報を得ること。
使用教材・参考文献	使用教材	使用しない
	参考文献	使用しない
成績評価の基準と方法	基準	・出席態度を重視するため、体調が悪いときは見学または活動補助などの形で出席すること。
	方法	・出席・受講態度 80%、グループ点 20%
備考	・第 1 回目は、体育館シューズに履き替えて集合すること。また、種目選択およびグループ編成のため、極力欠席しないよう努めること。・教員が指示する『読書』課題の遂行を、受講生の成績評価に加味、あるいは成績評価を受けるための前提とする。詳細は、初回の授業で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル